

令和5年度高知県産業教育審議会の報告

令和6年2月9日開催

○県立高等学校の在り方に関するご意見等

県立高等学校 全体	<p>子供の数が毎年400人ずつくらい減っている。再編を考えるのであれば、今までのような計画では間に合わないのではないか。ICTに特化したような大胆な再編案を入れないと高知県の教育の質を維持できないのではないか。</p>
	<p>グローバル化ということを日本人に英語を教える発想だけでなく、いろんな国の人がいるなかで活用することを前提にグローバル化を進める必要がある。</p>
	<p>4年制大学へ進学する割合が4割というのは低い。県全体でもっと4年制大学への進学者数を増加させていかないと、基礎学力や今後の社会を担う能力を養うには不十分である。</p>
	<p>全国に県立大学付属高校は4校あり、県全体の大学進学率を上げるために設置されている。そこから一定数県立大学に進学できるようにすれば、県外に流出することを防ぎながら、県内事業所に就職できる仕組みを作っていくのではないかと。</p>
産業系全体	<p>外国人労働者数が前年度と比べて700人以上増えている。卒業してから外国出身者と働く機会が今後増えていく。グローバル化への対応として、文化面やコミュニケーションなどへの理解も含め、外国出身者と一緒に働く上で必要な要素を含めた教育活動も取り入れてほしい。</p>
	<p>産業教育の質や内容を考えるうえで、県や学校が専門学校や大学なども含めて、どれくらいのレベルのものを求めているかが表に出てきていないように思う。そういった部分が魅力化になってくるのではないかと。</p>
	<p>徳島県のある産業系専門高校では、県教委がかなり手を入れて、進学に特化した教育課程を作り、進学率が伸びている。上級学校に進み高いレベルの技術を学ぶ人材等を育成できるような教育課程を作っていくべき。</p>
	<p>少子化の中でも埋もれてしまう子どもたちがいる。なかには、能力は高いが特性を持っているため、生きづらさを感じる子どもたちがいる。そういった子どもたちにも、産業系を知る機会があれば、活躍できるようになるのではないかと。</p>
	<p>頭がいいではなく発想力を持つ。自由な発想ができること。思考を立体的に考えることが大事。技術は会社で教えるので、そのような人材を育ててほしい。</p>
農業	<p>農業を職業として選んでもらうことが難しい。保育園、小学校の小さい時期から体験学習をしていかないといけない。1次産業は体験しながら意識を高めていくことを目指していかないと、人材不足を解決できない。</p>
工業	<p>高知工業高校では、高度な職業人になるために、もっと大学に進学するようにして、大学と提携する仕組みを作っていくといいと思う。</p>
	<p>技術職の人で地場からの採用は普通科からがほとんどで、働きながら技術力を身につけている。高知で就職したいという生徒がいるので、地場の工業高校とかから採用できたらいいと思う。</p>
看護・福祉	<p>看護・介護を担う人材が不足している。職業を選択してもらうために、保育園、幼稚園と保護者対象にいろいろ取り組みをしているが、厳しい状況にある。県内の看護系専門学校には、東南アジアの方などからレベルの高い方々が来られて学ばれている。</p>